



The Higo Foundation for Promotion of Medical Education and Research

肥後医育ニュースレター

(題字 元理事長 徳臣晴比古)

発行所 公益財団法人 肥後医育振興会
 〒860-0811 熊本市中央区本荘2丁目2番1号
 TEL・FAX (096) 373-5425
 ホームページ <http://www.119higo.com/>
 E-mail 119higo@fc.kuh.kumamoto-u.ac.jp
 理事長 神原 武 編集人 木原 信市
 印刷所 懶城野印刷所 TEL (096) 286-3366(代)

理事長挨拶

肥後医育振興会設立十六年目、熊本県第一号の公益財団法人に認定されて三年目を迎えて



財団法人肥後医育振興会 後熊本大学医学部創立一〇

理事長 神原 武

〇年記念事業として平成八年に発足したもので、熊本県における医学・医療振興に必要な教育・研究の助成、地域医療の向上と県民の健康増進、日本国内外の医学・医療の進展に寄与することを目的としており、資金は医学部教員、熊大医学部同窓会会員、更に一般の方々や団体からのご寄附・維持会費によって賄われています。発足以来十六年目を迎え、「肥後医育塾」開催や熊本日日新聞発行の「まいらいふ」の医療記事の監修を行うことにより一般市民にもよく知られるようになってきています。一昨年法人法が改正されたのを機に、平成二十二年一月四日付けで熊本県第一号の公益財団法人に認定され、創立以来の念願であった公益法人格を得、特に本年から維持会費が所得税・住民税を対象に税法上の優遇措置が認められようになり再出発をしています。

事業は①公益目的事業、②収益事業、③その他の事業(相互扶助事業など)に分けられています。昨年度の事業の詳細はこのニュースレターの後方に詳しく書かれていますのでご覧ください。公益財団法人認定後の新しい

事業は「熊本県医療人育成総合会議」の開催です。我が国では厚生労働省の国家試験に合格して資格を認定される医療職種が二十三あり、医療現場ではチーム医療が定着していますが、教育現場では、各種の医療人育成学校間で連絡を取り合いながら総合的に教育内容を話し合う制度や機会が存在していません。そこで各種医療人教育者が集まる総合会議を作り、様々な角度から意見を交換し学びあうことにより、地域医療を担う医療人の質的、量的な必要性を満たす医療人の育成(医育)のあり方を探る会にしようという計画です。

一昨年の初回の会議で各方面から現状が話されましたが、二回目以降は現状における問題点の原因を究明し更に目標を設定し、その解決のための有効な手段を開発・実施し、さらにはそれを評価(結果と目標との比較)する必要があるとします。しかも、それぞれがロジカルに進めていくことが大事だと思います。昨年は東日本大震災と巨大津波の上に、原発事故による人災が加わり、災害医療、災害医学教育に色んな実例が明らかになって、医療人に何が求められようか対処したかを、現場で奮闘された医師、保健師、熊本から災害医療に派遣された医師、専門看護師、災害医学教育の国際

的な専門家をお招きして、講演会及びパネルディスカッションを通して学びました。これらも、後日、熊本日日新聞(十二月十七日付)に詳しい記録が載り、ホームページでも県民に公開してあります。

また、認定後に拡大させた公益事業として「医学・生物科学関係の学会・シンポジウムの助成」があります。従来から国際シンポジウム支援として熊本大学主催の「熊本医学・生物科学国際シンポジウム」を支援して

きましたが、近年熊本においても医学・生物科学関係の学会・シンポジウムの開催が増加しており、これらを広く支援することにより、さらに公益性を高め、熊本における医学・生物科学の研究と学術情報の発信・公開を促進させ、学術及び科学技術の振興に貢献するために、平成二十三年度から公募により支援対象の学会・シンポジウムを拡大しました。平成二十三年度の支援実績は二件でしたが、二十四年度は三件、二十五年度は三件の応募申請があつていきます(応募は随時受付)。

次に、肥後医育振興会ホームページについて触れたいと思います。これに関しては、一昨年七月三十日にホームページの維持管理をお願いしている熊本日日新聞社と協議を行い、活性化を検討することになり少しずつ進んでいます。改革には検証可能な評価法が必要ですので、まずはアクセス数で評価することから始めています。

アクセス数は一日当たり平成二十年一五六件、平成二十一年一六六件、平成二十二年二二八件、平成二十三年三五三件、本

年(一〜八月まで)三二八件と増加傾向にあります。更に双方向性に本会へのご意見ご希望を聞ける「枠」を作れないかと思つていきます。

最後に「肥後医育記念館」の整備について、少し考えを述べておきたいと思つています。肥後医育振興会や熊杏会(熊本大学医学部医学科同窓会)の事務所がある「肥後医育記念館」は元来ミュージアムとしての役割を期待して建設されたものでもありませんので、学生教育や一般見学者に見せられるように展示内容を整備しておく必要があります。熊本大学医学部同窓会誌「熊杏(五五号二〇一〇年発行)」に、「特集三 熊杏会収蔵資料について」として、松下修三編集委員長のご努力により、収蔵資料一覧を掲載していた、だきました。今後この目録を見ながら、どういうふうに表示をするか、つまり展示方法や必要経費(最低三〜四千万円はいるだろうという意見があります)の検討をしたいと思つています。その際、国立大学法人熊本大学の所存なので、それについての手続きにも時間が必要と思われまます。終わりにあたり、本会には皆様のご支援により成り立っておりますので、今後とも皆様方からのご支援を切にお願いいたします。ご遠慮なく本会に対するご意見ご要望を電話、手紙、メールなど色んなメディアを通じてお知らせ下さいませよう願ひいたします。皆様の益々のご健勝とご活躍を祈念してご挨拶に代えたいと思つています。